

## 研究報告

## 能登地域における家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態及び介護者支援のニーズ

## — 男性介護者・家族介護者サポートネットワークシステム構築に向けた取り組みから —

彦 聖美<sup>1§</sup>, 宮下陽江<sup>2</sup>, 中村悦子<sup>3</sup>, 鈴木祐恵<sup>4</sup>, 新田大貴<sup>4</sup>,  
川西早苗<sup>4</sup>, 大木秀一<sup>4</sup>

## 概要

能登地域は高齢化・過疎化が深刻な地域であり、石川県の中では男性介護者の割合が高い。能登地域における家族介護者支援は小規模地域での自己完結的な支援となる可能性がある。本研究の目的は、能登地域における家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態及び介護者支援のニーズを把握し、男性介護者・家族介護者サポートネットワークシステム構築の推進に向けた基礎資料とすることである。家族介護者と支援者を対象に実施した質問紙調査の結果、当事者グループに所属する家族介護者は男女共に、他の会との交流を望んでいた。また、介護者支援のニーズを探るグループワークから、ニーズとして【地域のサポート】【交流の促進】【相談】【社会的サポート】【精神的サポート】【制度・サービス・技術の充実】が挙げられた。限られた地域資源を補完し発展させる「人」と「人」のつながりを強化し、家族介護者支援に取り組むことが求められる。

キーワード 家族介護者, 男性介護者, 当事者グループ, 社会的ネットワーク

## 1. はじめに

石川県能登地域の老年人口割合（2015年10月現在）は、奥能登地域45%、中能登・羽咋郡市地域38%、七尾鹿島地域35%であり、石川県全体の28%に比して高い。また、2014年10月から2015年9月の人口減少率は、能登町2.9%、珠洲市2.7%、穴水町2.2%、輪島市1.9%であり、石川県全体の減少率0.3%に比して高く、能登地域は高齢化・過疎化が深刻な地域である<sup>1)</sup>。また2013年には、日本の男性介護者の割合は3割を超え、増加している<sup>2)</sup>。男性介護者は、介護を自分ひとりで抱え込みすぎる傾向があり、孤立しやすく<sup>3,4)</sup>、介護生活の破綻リスクが高い<sup>5)</sup>。能登地域は、石川県の中でも男性介護者の割合が高い地域であり、中でも未婚の息子が親を介護する世帯の割合が高く<sup>6)</sup>、男性介護者は家族介護者支援の1つのターゲット集団といえる。

共通の問題や課題、悩みを抱えた当事者同士の集まりは、当事者グループ、自助グループ、患者会、家族会などがある。セルフヘルプグループの定義は様々あるが、当事者グループも、その果たす機能から、セルフヘルプグループの一形態である<sup>7)</sup>。近年、当事者グループ活動におけるナラティブアプローチの効果、エンパワメント効果が期待されている<sup>8)</sup>。しかし、当事者グループ活動は、グループリーダーや支援者の熱意に依存する部分が大きく、継続が難しい。能登地域のような高齢化・過疎化の深刻な地域においては、家族介護者支援は小さな地域での自己完結、衰退に陥る可能性がある。その解決策として期待されるのが、当事者グループ同士の連携、さらに多職種（保健行政・医療・研究・他団体）とのゆるやかな連携・協働によるサポートネットワークシステム（以下、Support network system: SNS）の構築である<sup>7)</sup>。研究者らは、2012年より能登地域の2市1町において、男性介護者の料理教室を通じた当事者グループ活動の支援や既存の地域住民グルー

<sup>1</sup> 金城大学看護学部 <sup>2</sup> 羽咋市社会福祉協議会

<sup>3</sup> みんなの保健室わじま <sup>4</sup> 石川県立看護大学

<sup>§</sup> コレスポンディングオーサー

プとの交流を促進してきた<sup>9)</sup>。その活動を踏まえ、2015年からは能登地域全域を対象地域として、サポートネットワークシステムの構築に向けた取り組みに着手した。

そこで、本研究の目的は、能登地域における家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態及び介護者支援のニーズを把握し、男性介護者・家族介護者サポートネットワークシステム構築の推進に向けた基礎資料とすることである。

## 2. 研究方法

### 2.1 家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態

#### (1) 調査方法

能登4市5町（羽咋市・七尾市・宝達志水町・志賀町・中能登町・輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）を2ブロックに分け、多地域が集まる交流会を2回開催し、家族介護者と支援者別に自記式質問紙調査を実施した。

#### (2) 対象者

交流会に参加し、調査に承諾が得られた家族介護者と支援者であった。

#### (3) 調査日

第1回は2015年9月5日に羽咋会場（対象地域：羽咋市・七尾市・宝達志水町・志賀町・中能登町）で実施した。第2回は、9月17日に輪島会場（対象地域：輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）で実施した。

#### (4) 調査項目

「家族介護者に対する調査」の項目は、属性、社会的ネットワーク（近所付き合い・普段の会話）の様子であった。社会的ネットワークの調査項目は、文献<sup>10,11)</sup>を参考に作成した。介護者グループの活動の様子については回答肢を設け、単一回答として記載してもらった。「支援者に対する調査」の項目は、属性、支援活動の現状、男性介護者と女性介護者別支援の様子であった。セルフヘルプグループに対する支援に関する文献<sup>12,13)</sup>を参考に、調査項目を作成した。

#### (5) 分析方法

「家族介護者に対する調査」により得られた回答を各項目について、男性介護者と女性介護者に分けて単純集計した。「支援者に対する調査」は、

各項目で単純集計した。

### 2.2 能登地域における介護者支援のニーズ

#### (1) 調査方法

2回開催した交流会において、グループワークを行った。グループ編成は意図的に、なるべく異なる市町の家族介護者と支援者がメンバーとなるように6グループを形成した。

#### (2) 対象者

交流会に参加し、調査に承諾が得られた家族介護者と支援者であった。

#### (3) データ収集方法

能登地域における家族介護者と支援者が抱く介護者支援に関連するニーズを幅広く抽出するために、「こんな介護者サポートがあったらいいな」というテーマで、グループワークを実施した。グループワークでは、自分の意見を付箋に書き出し、模造紙に張り付けてグループごとに話し合い、その内容を発表した。

#### (4) 分析方法

グループワークで付箋に書き出された意見を、すべてデータとして整理した。研究者らで、データの内容が類似したものをグループにまとめ、それぞれのグループに見出しをつけた。さらに、グループの内容が類似したものをまとめ、サブカテゴリー、カテゴリーに分類した。

### 2.3 倫理的配慮

本調査は、石川県立看護大学倫理委員会の承認を得て実施した（看護大473号）。多地域交流会の参加者募集のチラシには、交流会では本研究を実施することを明記した。多地域交流会の開催にあたり、研究への参加は自由意思によること、質問紙調査の回答は無記名であること、得られたデータは厳重に管理すること、公表は個人が特定されない等を文書と口頭で説明し、同意を得て実施した。

## 3. 結果

### 3.1 家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態

#### (1) 能登地域における当事者グループ

調査時点で、能登地域には当事者グループが3つ存在し、概要は以下であった。①自主的なグルー

プ（代表は男性の介護者）は、毎月1回定期開催され、継続期間は2年であった。地域包括支援センターがゆるやかに後援していた。②社会福祉協議会が全面的に支援する家族会（代表は女性の介護経験者）は、毎月1回定期開催され、継続期間は10年であった。③社団法人主催のメンズケアラーの会は、不定期の開催で、継続1年未満であった。

## （2）家族介護者に対する調査

男性介護者26名中25名、女性介護者12名中11名、合計36名より回答を得た（回収率95%）。年齢は、男性は60歳代9/25名、70歳代9/25名、80歳代7/25名、女性は60歳代4/11名、70歳代6/11名、（不明1名）であった。現在介護中の者は、男性20/25名、女性8/11名、介護経験者が男性5/25名、女性3/11名であった。配偶者を介護する者が男性13/25名、女性2/11名、親を介護する者が男性6/25名、女性7/11名であった。一人暮らしが男性1/25名、女性2/11名、二人暮らしが男性10/25名、女性5/11名であった。男性介護者のグループに所属している者が18/25名、家族介護者の会に所属している男性が2/25名、女性9/11名、所属無しが男性5/25名、女性2/11名であった。

家族介護者が所属している介護者グループの活動の現状を表1に、家族介護者の社会的ネットワークの現状を表2に示す。

## （3）支援者に対する調査

支援者38名中32名（男性7名、女性24名、不明1名）から回答を得た（回収率84%）。支援者の内訳は、市町担当者11名、社会福祉協議会等6名、介護支援専門員3名、ボランティア4名、民生委員1名、その他5名、不明2名であった。

支援者からみた男性介護者と女性介護者の特徴を表3に、支援者が感じる家族介護者支援活動の現状を表4に示す。

## 3.2 能登地域における介護者支援のニーズ

羽咋会場のグループワークには介護者20名、支援者19名、輪島会場には介護者18名、支援者19名の計76名が参加した。介護者支援のニーズのカテゴリー、サブカテゴリー、意見例を表5に示す。

グループワークで出された介護者支援に対する意見は301個であった。ニーズではない意見29

個を除外し、272個の意見を分析の対象とした。その結果、介護者支援のニーズは、24個のサブカテゴリー、6個のカテゴリーに分類された。カテゴリーは【地域のサポート】【交流の促進】【相談】【社会的サポート】【精神的サポート】【制度・サービス・技術の充実】であり、その内容を、表5に示す。

## 4. 考察

### 4.1 能登地域における家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態

能登地域には、6市町に家族介護者の当事者グループはなく、社団法人主催のメンズケアラーの会は代表者が存在せず、不安定な活動といえた。セルフヘルプグループは、「生活上の共通課題に取り組むために自発的に集まり相互援助と目的達成を狙った小グループであり、個人ないし社会の変化をひき起こそうとする」<sup>7)</sup>と定義される。家族介護者は、介護中は心身ともに余裕がなく、介護を終えた時には、高齢であることが多い。そのため、家族介護者自身が自発性や自主性を当事者グループにおいて発揮することは難しいと予想される。家族介護者の当事者グループが、その機能を発揮し、発展するためには、複数リーダー制や事務局機能の代行等の負担を軽減する支援及び行政機関の継続的な後方支援が重要と考える。

家族介護者に対する調査結果（表1）からは、男性介護者・女性介護者共に、他のグループとの交流を望む姿勢が伺えた。また、男性介護者は女性介護者に比べて、活動の成果発表の場を希望している者の割合が高く、性差が伺えた。

また、家族介護者の社会的ネットワークの現状の結果（表2）をみると、能登地域の男性介護者・女性介護者共に近所付き合いがあり、近所付き合いを「ありがたい」と捉えていた。1日の会話時間を見ると、男性介護者の過半数が1時間未満であった。孤立しやすい傾向がある<sup>3,4)</sup>という男性介護者の特徴や、介護者の会等に所属していない男性が5名（20%）存在していた結果を併せて考えると、男性介護者に対しては日常的な「会話」ができる交流の機会を促進する支援をスタートさせることが必要と思われた。

支援者に対する調査結果（表4）からは、5割の支援者が他の地域のグループと連携したいと希望していたが、実際には9割の支援者が他のグループを把握していなかった。また、支援者の5割が地域の困りごとを抱え、7割が男性介護者に

表1 家族介護者が所属している介護者グループの活動の現状

		男性 n=20		女性 n=9	
		n	%	n	%
メンバーの減少	困っていない	7	35	1	11
	どちらともいえない	5	25	3	33
	困っている	3	15	5	56
	不明	5	25	0	0
他のグループとの連携	希望する	12	60	5	56
	どちらともいえない	5	25	2	22
	希望しない	0	0	0	0
	不明	3	15	2	22
活動成果の発表の場	希望する	8	40	0	0
	どちらともいえない	8	40	8	89
	希望しない	0	0	1	11
	不明	4	20	0	0
情報共有の様子	うまくいっている	7	35	4	44
	どちらともいえない	6	30	3	33
	難しい	4	20	1	11
	不明	3	15	1	11
活動資金	困っていない	3	15	2	22
	どちらともいえない	10	50	4	44
	困っている	2	10	1	11
	不明	5	25	2	22

表2 家族介護者の社会的ネットワーク（近所付き合い・普段の会話）の現状

		男性		女性	
		n	%	n	%
近所付き合い		n=25		n=11	
近所付き合いの様子	付き合いがある	18	72	7	64
	付き合いが少ない	4	16	3	27
	不明	3	12	1	9
近所付き合いへの思い (各項目に当てはまると答えた回答者数)		n=21		n=10	
	楽しい	5	24	4	40
	ありがたい	15	71	8	80
	面倒だ	3	14	2	20
	何とも思わない	1	5	2	20
普段の会話		n=25		n=11	
1日の会話時間	30分未満	6	24	1	9
	30分～1時間	8	32	4	36
	1～2時間	4	16	3	27
	2時間以上	3	12	2	18
	不明	4	16	1	9
家族以外の人との会話	毎日	12	48	5	45
	週に2,3回	4	16	3	27
	週1回	5	20	0	0
	週1回未満	0	0	2	18
	不明	4	16	1	9
普段の会話の相手 (各項目に当てはまると答えた回答者数)		n=22		n=10	
	配偶者	15	68	6	60
	子ども	3	14	1	10
	子ども以外の家族	2	9	5	50
	親戚	10	45	2	20
	友人	7	32	5	50
	その他	11	50	8	80

表3 支援者からみた男性介護者と女性介護者の特徴 n=32

		n	%
男性介護者の支援の難しさ	感じる	23	72
	感じない	3	9
	無回答・不明	6	19
女性介護者の支援の難しさ	感じる	12	38
	感じない	10	31
	無回答・不明	10	31
男性介護者からの相談	良く受ける	1	3
	時々受ける	11	34
	あまり受けない	9	28
	どちらともいえない	2	6
	不明	9	28
女性介護者からの相談	良く受ける	8	25
	時々受ける	12	38
	あまり受けない	2	6
	どちらともいえない	2	6
	不明	8	25
男性介護者の交流会への参加	意欲的	3	9
	どちらともいえない	9	28
	意欲的でない	12	38
	不明	8	25
女性介護者の交流会への参加	意欲的	12	38
	どちらともいえない	11	34
	意欲的でない	1	3
	不明	8	25

表4 支援者が感じる家族介護者支援活動の現状 n=32

		n	%
自身の立場	困っている	4	13
	困っていない	7	22
	該当しない	7	22
地域での困りごと	不明	14	44
	困っている	17	53
	困っていない	3	9
新たに支援が必要な介護者の把握	不明	12	38
	情報を得ている	4	13
	どちらともいえない	10	31
	情報が少ない	11	34
地域のボランティア	不明	7	22
	不足していない	3	9
	どちらともいえない	5	16
	不足している	21	66
能登地域の他の支援グループについて	不明	3	9
	把握している	3	9
	どちらともいえない	10	31
	把握していない	16	50
他の支援グループの活動内容について	不明	3	9
	知っている	3	9
	どちらともいえない	14	44
	知らない	11	34
他のグループとの連携	不明	4	13
	連携したい	15	47
	どちらともいえない	5	16
	該当しない	1	3
	不明	11	34

表5 介護者支援のニーズ

カテゴリー：内容	サブカテゴリー	数	付箋の意見（抜粋）
地域のサポート： 在住する地域や、地域住民、認知症介護に対して望む支援に対するニーズ	地域のつながり強化	17	地域ぐるみで介護 近所の人との交流・助け合い 町内に助け合いグループがある
	近隣住民の声掛け・見守り	12	様子をたまに見に来てくれると助かる 隣近所の声掛け、見守り 声掛け、一人住まいの方の安全確認
	近所で気軽に相談できる人や場	10	介護かけ込み寺 さあっと寄れる場 近所に相談できる場所
	近隣住民の手助け	7	一緒に散歩、一緒に畑、近所の人への支援 近所が仲良くして困った時には頼める関係
	認知症への理解	5	認知症の人を地域で支えるという仕組みがあると家族は楽になる 近所へ認知症だということを話し、変な時は連絡を頼みたい
交流の促進： 介護者同士の交流の場、当事者や支援者の交流、世代を超えた交流に対するニーズ	介護者がつながる機会・家族会	24	男性介護者同士が一杯やりながらゆっくり語れるグループがあったら 介護者同士の交流の場。介護者交流会の回数を増やしてほしい 家族介護者の会があれば定期的に集まって気軽に話ができる
	多世代の交流	9	小学生が高齢者の家に顔を出してくれる。 学校の行き帰り子ども達による家庭訪問 若い人との交流を深める
	介護体験談を聞く機会	8	介護の体験談を開ける場所 介護のOB活躍（語り）
	介護される人と一緒に参加できる場	5	介護を受けている人と一緒に参加できる催し物 介護されている人と介護している人が一緒に気軽に出かけられる場所
相談： 悩みを相談できる場や人、その方法に関するニーズ	相談できる人と場	18	親身に話を聞いてくれる相談窓口 気軽に困ったことを話せる場があったらよい すぐに相談できる相手
	訪問型の相談	8	訪問して話を聞いて欲しい 訪ねて会話してくれる人（愚痴や雑談）
社会的サポート： 生活に関連する支援、情報や知識、生きがいや健康に関連する支援、タイムリーな支援に関するニーズ	夜間・急な時に頼れる支援	17	困った時にすぐに見てもらえたり、お泊りできる場所があったら 急な用事ができた時、見守ってくれる場所 急に短時間でも代わりに見守ってくれる
	食事・買い物支援	15	介護者のための地元食材を使った安いお弁当サービス 男性介護者のスーパー買い物サポート 介護用品の訪問販売（家で）
	情報・知識の提供	14	介護に対する見学や話を聞きたい 町の社会資源、施設、民間業者、一覧で分かるもの。教えてほしい 介護情報の交換。新しい情報の交換
	経済的支援	11	介護給付金が欲しい やっぱりお金の面でのサポートも欲しい 在宅で介護していれば補助金があればよい
	交通・移動支援	10	介護者に対するイベントがあってもそこまで行く足がない 格安な介護タクシー 通院が大変助けてほしい
	旅行支援	8	旅行の支援（介護者・当事者）、お泊り（宿泊）支援 旅行の補助金があればいいな
	体調管理	7	介護者への健康のサポート 介護者の健康をサポートするサービス
精神的サポート： 気分転換、リラックス、精神的安定に関連する支援	気分転換・癒し	14	介護者が気分転換できる場の提供（趣味活動・交流） ホッとできる場所においておいしいご飯 低額もしくは無料のマッサージの提供
	精神的支援	5	認知症ケア。当事者も介護者も心の支援が必要 メンタルケア。有効な方法は何か
制度・サービス・技術の充実： 国や市町村に対する要望や社会制度、サービスの仕組み、介護サポート技術の発展に対するニーズ	国・行政への要望	14	国の地域にあった支援。都会と田舎の差をつけた支援 公的機関の場所を提供して、気軽に立ち寄れる所。担当者がいる
	介護関連制度の充実	13	自宅と施設が思うように行ったり来たりできるといい ケアマネがずっと統一できればいいな。施設によって変わっていく オムツの給付が助かる
	医療・介護サービスの充実	15	安い料金での家事の有償ボランティア（家族が同居でも使いたい） 薬を飲む量を間違えないように家族にも説明する
	介護ロボット	6	安価で優しい介護ロボットがあればいい 掃除ロボット、家事ロボット

対する支援に難しさを感じていた。以上より、能登地域では家族介護者支援における支援者の地域連携は殆どなく、有効な情報や資源を得る機会が限定されていることが示唆された。過疎地域においては、人的・物的資源の有効活用として、近隣の市町が協力して家族介護者支援の勉強会や交流会を開催する等、広域のゆるやかな連携体制を構築することが求められてくるだろう。制度として市町の協力体制を構築することは簡単ではないが、「人」と「人」の交流は、例えば「男性介護者」のようにターゲットとする集団を明確にすることや、きっかけがあれば比較的容易ではないだろうか。能登地域の4市5町から、家族介護者38名と支援者38名が交流会に集まった実績は、今後、能登地域におけるネットワーク構築の発展性を秘めると考える。

支援者からみた男性介護者と女性介護者の特徴の結果(表3)からは、支援者は女性介護者に比べて男性介護者に対する支援が難しいと捉えていた。交流会の参加に対しても、女性介護者が意欲的と捉える支援者が4割であるのに対し、男性介護者では1割に達しなかった。今回の取り組みでは、多地域交流会の参加者募集の際には、交流会名を「男性介護者・家族介護者」と併記する工夫を行った。その結果、多くの男性介護者の参加があり、効果的だったと考える。家族介護者支援においては、地域性や性差を捉えたきめ細かい支援の必要性がある<sup>5,6)</sup>。今後も家族介護者の性差を踏まえ、男女別のイベントを企画するなど、交流の場へ参加する第一歩を踏み出しやすくする工夫を講じる必要がある。

本質問紙調査は、調査対象者数が少ないこと、加えて男女比の偏りがあるという限界があるが、能登地域の家族介護者と支援者の現状について、ある程度把握できたと考える。

#### 4.2 能登地域における介護者支援のニーズ

「介護者支援のニーズ(表5)」より、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを< >で示し考察する。

【地域のサポート】では、<地域のつながり強化>、<近隣住民の手助け>に加え、<近隣住民の声掛け・見守り>という、さり気ない支援を求める様子が伺えた。近年、日本社会の伝統を踏まえた、強い主張をしない、引っ込み思案の「遠慮しがちな」地域活動の効果が見直されている<sup>14)</sup>。隣近所の「おつきあい」や「お互いさま」を重んじる日本文化の、程よい距離感、さり気ない支援

の掘り起こしと価値の再確認が求められる。

【交流の促進】では、<介護者がつながる機会・家族会>、<多世代の交流>、【相談】では、<相談できる人と場>のニーズが挙げられ、他者との関りを求めている様子が伺えた。男性介護者は特に、介護を一人で抱え込みすぎる傾向があり、男性介護者は介護者同士の集まりに参加するのを躊躇し、抵抗がある<sup>15,16)</sup>。家庭内完結型の介護からの脱却に向けた支援として、男性も参加しやすい交流イベントや、多世代の交流の機会を増やしていくことも有効と考える。

【社会的サポート】では、<夜間・急な時に頼れる支援>、<食事・買い物支援>、<交通・移動支援>のニーズが挙げられた。能登地域では独居と夫婦のみ世帯が多く、タイムリーに利用できる介護サービスやボランティアの不足、小売店の減少による買い物の不便さ、通院等の移動・交通手段の課題が深刻であることが考えられた。併せて【制度・サービス・技術の充実】では、<国・行政への要望>、<介護関連制度の充実>、<医療・介護サービスの充実>のニーズが挙げられた。国の推し進める「地域包括ケアシステム」の構築では、被介護者と家族介護者の「生活を支える」支援は、公助・共助よりも自助・互助の強化が推進されている。能登地域では、地域の少ない人・物・お金で、国の方針に従った自助・互助の推進路線は限界を迎えることが予想され、補完する仕組みづくりが必要となるだろう。

【精神的サポート】では、<気分転換・癒し>のニーズが挙げられた。家族介護者は日々の介護生活の中で腰や全身の疲労の蓄積を抱えている様子が伺えた。食事、休養等の健康支援全般に加え、気分転換やリラックスできる場等の精神的支援にも努めていく必要がある。

#### 5. まとめ

能登地域の当事者グループに所属する家族介護者は男女共に、他の会との交流を望んでいた。また、支援者の5割が他の地域との連携を望んでいたが、9割は他のグループを把握していなかった。「人」と「人」のつながりは大きな財産であり、限られた地域資源を補完し発展させる。しかし、それは自然発生的には期待できない。今後も、市町という行政区分の枠を超えたサポートネットワークシステムの構築を推進し、家族介護者支援の充実と発展を目指す継続的な取り組みが重要である。

### 謝辞

多地域交流会の実施に際して、羽咋市社会福祉協議会、羽咋市在宅総合サービスステーション、みんなの保健室わじまの皆様、石川県立看護大学卒業生の中村貫二さん、板村靖世さん、納谷祥子さん、田鶴浜高校と金城大学の学生ボランティアの皆様にご多大なご協力を頂きました。また、研究アシスタントの寺井みゆきさんには研究全般にわたり協力を頂きました。皆様に深謝いたします。尚、本研究は、平成27年度石川県立看護大学学内研究助成を受けて実施いたしました。

### 利益相反

なし

### 文献

- 1) いしかわ統計指標ランド：平成27年石川県の人口と世帯。  
<http://toukei.pref.ishikawa.jp/dl/3069/h27ishikawakennojinkoutosetai.pdf6>.  
(accessed 2016/9/20)
- 2) 厚生労働省統計情報・白書：平成25年度国民生活基礎調査。  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosal3/index.html>.  
(accessed 2016/9/20)
- 3) 春日キスヨ：変わる家族と介護「無縁社会」時代の介護を考える。講談社現代新書, 18-74, 126-170, 2010.
- 4) 平山亮：迫りくる「息子介護」の時代 28人の現場から。光文社, 84-282, 2014.
- 5) 彦聖美, 大木秀一：男性介護者の健康に関連する社会的決定要因と支援の方向性, 石川看護雑誌, 13, 1-10, 2016.
- 6) 彦聖美, 鈴木祐恵, 金川克子, 他2名：高齢期の妻や親を介護する男性の介護状況に関する実態調査－石川県における介護支援専門員に対する質問紙調査－, 石川看護雑誌, 10, 37-46, 2013.
- 7) 大木秀一, 谷本千恵：コミュニティにおけるセルフヘルプグループを基盤としたサポートネットワークシステム研究の今日的課題と展望。石川看護雑誌, 7, 1-12, 2010.
- 8) 斎藤真緒, 津止正敏, 小木曾由佳, 他1名：介護と仕事の両立をめぐる課題－ワーク・ライフ・ケア・バランスの実現に向けた予備的考察－。立命館産業社会論集, 49 (4), 119-137, 2014.
- 9) 彦聖美, 鈴木祐恵, 大木秀一：男性介護者に対する料理教室を通じた交流の促進によるエンパワメント発展過程の分析。公益財団法人勇美記念財団在宅医療助成2012(後期)報告書, 2014.
- 10) 内閣府：平成27年版高齢社会白書(全体版)：  
[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2015/zenbun/27pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2015/zenbun/27pdf_index.html).  
(accessed 2015/7/24)
- 11) 辻竜平, 佐藤嘉倫 編：ソーシャル・キャピタルと格差社会。東京大学出版会, 137-152, 2014.
- 12) 志水田鶴子, 廣庭裕, 郡山昌明, 他1名：当事者活動支援のあり方に関する研究 当事者活動支援センタークリアリングハウス仙台の支援から。医療と福祉, 43(1)4, 30-36, 2009.
- 13) 中田智恵海：セルフヘルプクリアリングハウスの活動と意義。ソーシャルワーク研究, 28(4), 8-11, 2003.
- 14) 今村晴彦, 園田紫乃, 金子郁容：コミュニティのちから 遠慮しがちなソーシャル・キャピタルの発見。慶應義塾大学出版会, 107-162, 2010.
- 15) 小林彩：在宅高齢者介護をする男性たち－女性介護者との比較による検討－。臨床発達心理学研究, 8, 27-44, 2009.
- 16) 羽根文：介護殺人・心中事件にみる家族介護の困難とジェンダー要因－介護者が夫・息子の事例から－。家族社会学研究, 18, 27-39, 2006.

## **Actual Conditions of Group Activities Conducted by Family Caregivers and Support Groups in Noto and their Needs in Providing Support: Approach toward Constructing Support Network Systems for Male Caregivers and Family Caregivers in Noto**

Kiyomi HIKO, Harue MIYASHITA, Etsuko NAKAMURA, Sachie SUZUKI  
Daiki NITTA, Sanae KAWANISHI, Syuichi OOKI

### **Abstract**

Noto is a rural region of Ishikawa Prefecture in Japan which suffers severely from a declining and aging population and has a higher percentage of male caregivers. Family caregiver groups in Noto tend to be self-sufficient in their small communities, isolated from outside support. The purpose of this study is to understand the actual conditions of group activities conducted by family caregivers and support groups in Noto and their needs in providing support. It is also to provide basic data for promoting the construction of support network systems for male caregivers and family caregivers in the region. The result of a paper survey conducted on family caregivers and their supporters showed that the male and female family caregivers in self-help groups hoped for interactions with other groups. It was also found out from group work conducted to study the needs of caregivers that they needed "community support", "promotion of interactions", "counseling", "social support", "psychological support", and "enhancement of systems, service, and technologies". It is necessary to address the issue of providing support for family caregivers in the region by strengthening bonds among people which complement and develop limited regional resources.

**Keywords** family caregiver, male caregiver, self-help group, social network